

知求会ニュース

2025 年 9 月

第 95 号

◎ 教職員人事異動

モリス ジェームズ ハリー 国際学部助教

モリス先生が本年、7 月 31 日付をもって国際学部を退職されました。国際学部には 2024 年 11 月から 1 年未満の短い間在籍されました。千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館特任准教授として、転出されました。なお、着任教員紹介その 31 として紹介する予定でしたが、入稿の遅れと、退職にともない未掲載になっています。

◎ 掲載記事紹介

1. 下野新聞（令和 7 年 5 月 25 日）18 面に、「スポーツのコラボに注目」「宇大・中村教授 政策の解探る新刊」と題して、**中村祐司**先生(宇都宮大学教授)の記事が掲載されました。
2. 下野新聞（令和 7 年 6 月 8 日）27 面に、「下野 連続講座がスタート」「宇大名誉教授・橋本さん」と題して「グリム童話に“今”を学ぶ」の内容で**橋本孝**先生(宇都宮大学名誉教授)の記事が掲載されました。
3. 毎日新聞（令和 7 年 6 月 12 日）17 面に、「グリム童話から現代の課題考察」と題して、「下野で講座」の内容で**橋本孝**先生(宇都宮大学名誉教授)の記事が掲載されました。
4. 下野新聞（令和 7 年 7 月 18 日）3 面に、「2025 とちぎ参院選」コーナーで「外国人政策争点化で県内当事者」と題して、「排外主義拡散を懸念」「平和に暮らしたい」訴え」の内容で**清水奈名子**先生(宇都宮大学教授)のコメントが掲載されました。
5. 下野新聞（令和 7 年 8 月 1 日）10 面に、「Smatch」紙面で「生活関連の政策に関心」コーナーにおいて「切実な声 聞こえる結果」と題して、**中村祐司**先生(宇都宮大学教授)の記事が掲載されました。
6. 下野新聞（令和 7 年 8 月 7 日）19 面に「外国人に分かりやすく伝えたい」と題して、「小山市内の教職員ら」「やさしい日本語」学ぶ」の内容で**神山英子**さん(国際学研究科国際社会研究専攻第 7 期生)の記事が掲載されました。
7. 毎日新聞（令和 7 年 8 月 13 日）19 面に、「やさしい日本語」「小山で活用講座」と題して、「教職員ら参加」の内容で**神山英子**さん(国際学研究科国際社会研究専攻第 7 期生)記事が掲載されました。
8. UU now No.60（2025 SUMMER）6 頁に、「記念事業」紙面で「国際学部創立 30 周年 記念シンポジウム開催」と題して、**中村真**先生(宇都宮大学教授)らの記事が掲載されました。
9. UU now No.60（2025 SUMMER）7 頁に、「研究 Keyword」コーナーにおいて「ジェンダー 時代の足音を捉えるアプローチ」と題して、**李亜姣**先生(宇都宮大学助教)の記事が掲載されました。

◎ 放送大学栃木学習センター面接授業

1. 現代の国際政治

2025年11月01日（土）1時限～4時限

2025年06月08日（日）1時限～4時限

松村 史紀先生（宇都宮大学准教授）

研究室訪問 63 第9号から国際学研究科に関係する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

「地域とつながる「国際共修」をめざして」

留学生・国際交流センター 杉野 知恵

私は宇都宮で生まれ、高校卒業まで過ごした「宮っ子」です。当時とはとにかく地元を出たくて大学は東京一択でした。とはいえ、高校の英語の先生になりたかったので、大学卒業後は宇都宮に戻るのかなと漠然と考えていました。ところが、教員の資格を取るには朝一の授業の履修が必要で、通学時の満員電車で圧死しそうになり早々にギブアップ。その後、外務省に何とか採用されて20年弱勤務しました。

職業人生の折り返し地点に差し掛かる頃、いろいろと思うところがあり、改めて教育に関わりたくて大学教員に転じました。研究実績ゼロでのスタートは、今思い返せば「無謀」の一言に尽きますが、いわゆる「リスクリング」を現在も続行中です。そして、教員生活9年目に入った2024年に縁あって宇都宮大学留学生・国際交流センターに着任し、数十年ぶりに地元に戻ってきました。

そんなわけで、何を研究しているのかと正面から問われると居心地の悪さを感じます。強いていえば、博士論文で扱った、大学の大衆化と国際化の交わるところが私の関心の一つです。特に英国（イングランド）の「新しい大学」といわれる、1992年に大学に昇格した「ポスト1992大学（post-1992 universities）」の教育の国際化に着目してきました。これらの新しい大学が、国際化をどのように大学戦略に位置づけ、どのような教育のアウトカムを設定し、教育の国際化を実践しているのか、研究志向型伝統大学と比較しながら分析しています。

ではどんな教育をしたいのか？あまり海外志向が高くない学生に対して、異文化との接点をもつ面白さを伝えたいというのが私の原動力です。その結果面白くなかったというならそれでもいいでしょう。でも、その関心のなさは食わず嫌いかもしれません。いまや異文化＝外国の文化とは限りません。外国に限らず、自分と違う文化や背景をもつ人たちとの交流は、楽しいだけでなく、これまで気づけなかった視点を得られるなど、大きな価値があります。

実際に、英国の報告書（[UKKi, 2025](#)）では、在学中に海外経験をした学生の方が成績や就職に関して優位という結果が出ている一方で、海外に行く学部生の割合はイングランド

で7%程度にすぎません。財政的な理由で海外経験ができない学生も多いとのことで、英国では奨学金を充実させるなど、Go International Campaign（日本でいう「トビタテ！留学JAPAN」のようなプログラム）を実施しました。しかし、キャンペーンの後半とコロナ禍が重なったこともあり、留学数はあまり増えず、次に目を向けたのが Internationalization at Home（「内なる国際化」とも訳されます）です。世界中から多くの留学生が学んでいる英国のキャンパスで国際的な経験や異文化との接点を提供し、国内学生の異文化間能力を高めようという取組です。最近、日本でも「国際共修」や「多文化共修」という言葉が多く聞かれるようになりました。

さて、現在宇都宮大学には、全学生の5%弱に相当する250名弱の留学生が在籍しています。にもかかわらず、3年生を対象にした[学生総合調査](#)（Q123）では、60%超の学生が「留学生が身近にいないので話したことがない」と回答しています。もしかすると、身近にいても気づいていないだけなのでは？

そこで、留学生との交流を取り入れた新しい科目（地域と世界をつなぐ「グローバル実践」）を今年度から立ち上げました。留学生を含むグループでのディスカッションを中心にした授業です。県内で国際的な活動をしている団体や、外国人を雇用したり、海外のマーケットに向けてビジネス展開をしている企業のトップをゲストにお招きし、地域の強みを意識しながら世界に目を向け、各企業が抱える現在の課題を多様な視点で議論しました。

県内の官公庁の担当者や企業の経営者に加え、米国から栃木の魅力を精力的に発信するとちぎアンバサダーの田崎さん（オンライン）、そして駐日シンガポール共和国大使にもゲストとして登壇してもらいました。宇都宮や栃木がこんなに国際的になっていたのかと実感しながら、私も毎回楽しくお話を伺いました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

また、国際系の科目は峰キャンパスでの開講が多いので、あえて陽東キャンパスで行うことにしました。これが裏目に出たのか、履修者数は30名弱の小さなスタートとなりました。それでも全学部からの履修者が集まり、大学院の留学生も聴講で参加してくれたので、毎回グループには留学生が1名以上、所属学部もさまざまとなり、多様性を確保できました。この授業での学生の体験については、別の機会に発表予定です。

この授業をはじめ、留学生と国内学生が共に学ぶ「共修」の場をより多く提供できるよう、新たな仕掛けを考えていきます。宇都宮大学の戦略の一つである「グローバルキャンパスの構築」に向けて、皆様のご支援・ご助言をいただけましたら幸いです。

（2025年8月19日原稿受理）

写真あり 写真は国際学部同窓会 HP のコミュニティ広場に掲載されています。
駐日シンガポール大使（中央）とともに

「機械翻訳と日本語教育—スリランカ人日本語学習者向けの
作文授業での機械翻訳の使用法と学習活動—」

BALASOORIYA BALASOORIYA MUDIYANSELAGE UDANI SUGANDIKA

【論文要旨】

本研究は、シンハラ語を母語または高度な第二言語とするスリランカ人日本語学習者（以下、SNL）を対象に、機械翻訳（MT）を日本語の作文学習に活用する有効性を検証した。近年 MT 技術は大きく進化し、英語教育ではその活用が進むが、日本語教育では実用的な指導法がまだ確立されていない。

第一に、MT の日本語教育現場への導入状況について、SNL は語彙の意味を調べる際に MT を日常的に使用しているが、教室内ではあまり活用されていない。これは指導者側が MT の活用法を把握しておらず、教育活動に十分に取り入れられていないことが一因である。教師が MT の効果的な使用法を理解し、授業に取り入れることが今後の課題である。

第二に、SNL の作文における誤用傾向として、名詞・動詞・助詞の使用ミスが多く確認された。特に格助詞「ニ」や接続助詞「カラ」「ノデ」の誤用が顕著で、語彙の選択や文法の理解に課題がある。こうした誤用傾向の分析から、MT が語彙・文法の学習補助に有効であることが示された。

第三に、MT を用いた指導により、特定の文法誤用が減少することが確認された。MT を使用した 2 回目の作文では初回より誤用数が減っており、継続的な利用が誤用の改善に効果的であることが分かった。一方で、MT 出力の誤解や学習者の抵抗感が依然として誤用の要因となるため、教師の支援が重要である。

第四に、本研究では MT を活用した学習活動として、「翻訳比較」「逆翻訳」「クイズ」「エラー発見」「文法ポイント強調」などの方法を提案した。これらは語彙・文法理解の向上を促すだけでなく、学習者の表現力や自己修正能力の育成にも効果がある。MT を活用することで、学習者の自律的学習や教師による支援の質向上も期待できる。

【後輩に向けた助言・メッセージ】

私はスリランカのケラニヤ大学を卒業後、同大学で日本語講師として常勤（契約）勤務をしていた。その中で、SNL が多くの学習上の問題を抱えていることに気づいた。単に知識

を教えるだけでは限界があり、学習者が直面する困難を根本的に解決するためには、研究を通じて課題を明らかにし、より良い教授法や学習支援の方法を開発する必要があると感じた。こうした思いが、日本語教育研究の道に進む大きな動機となった。

特に関心を持ったのは、日本語の擬音語・擬態語に関する問題である。これらの表現は、日本語において非常に豊かで頻繁に用いられるが、シンハラ語には対応する語彙が少なく、翻訳や理解が困難であるという特徴がある。学習者は文脈から意味を推測するのが難しく、誤用も多く見られた。私はこの分野を体系的に研究したいと考え、宇都宮大学大学院の吉田研究室に進学し、修士課程で擬音語・擬態語の理解と翻訳に関する研究に取り組んだ。

修士課程を修了した後、さらに教育現場に応用可能な研究を進めたいと思い、博士課程に進学した。ちょうどその頃、MTの技術が急速に進歩し、英語教育においてはすでに実用化が進んでいたが、日本語教育ではまだ十分に活用されていなかった。私はこの技術をスリランカ人日本語学習者の学習支援に活かせるのではないかと考え、MTの活用方法や有効性について研究を行った。特に、語彙・文法の誤用傾向を分析し、MTが誤用の修正や言語表現力の向上にどのように寄与できるかを明らかにすることを目指した。

博士課程の3年間は、想像以上に短く、充実した時間を過ごすためには計画的な行動が不可欠である。これから博士課程に進む後輩には、「時間をどう使うか」を常に意識してほしい。授業履修、調査、学会発表、論文投稿、博士論文の執筆と、やるべきことは多岐にわたる。また、予備審査や本審査、提出期限など大学が定めるスケジュールに従って行動しなければならないため、1年目の段階で3年間の全体像を把握し、逆算して計画を立てることが重要である。

限られた時間の中で最大限の成果を上げるためには、自主的に動き、明確な目標を持って日々を過ごすことが求められる。研究に行き詰まることもあるかもしれないが、目の前の課題に一つひとつ丁寧に向き合えば、必ず道は開ける。博士課程は研究者としての基盤を築く貴重な期間であり、ここで得られた経験と知見は、将来の教育や研究に大いに役立つはずである。自らのテーマに誇りを持ち、実りある3年間を過ごしてほしい。

(地域創生科学研究科 博士後期課程 先端融合科学専攻
グローバル地域デザインプログラム 修了)

(2025年5月14日原稿受理)

知究人 37 第 9 号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー(ちきゅうびと)を設けました。

海外だより 35 第 27 号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

海外留学今昔 32 第 35 号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者**および**海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

学生サロン 24 知求会ニュース第 41 号より現役学部生・院生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

キャリア指南 15 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

フォーラム 2025 年の長月を迎えて、皆様忙しいことと思います。(原稿集めに苦勞しています。)

「4 月に Expo へ行ってきました～！」

西出 幸代

最近のディズニーランドとかみんなアプリ入れて、順番取ってなどなど、面倒くさいですよ。私、クルーズ船も乗ったんですが、クルーズ船も同様、乗る前からアプリを入れて、自分のデータを入力してくれたりしましたが…。そして、この Expo も“並ばない Expo”を目指し、アプリでの操作が欠かせません。

チケット(デジタル)購入から入場までは、次の様な手順を踏みます。①**チケットを購入** ②**「万博 ID」を登録** ③**「万博 ID」に「チケット ID」を登録** ④**来場時間を予約** ⑤**パビリオンなどの観覧予約・抽選** ⑥**予約日時に会場へ**

希望の来場時間が一杯になってしまっている場合は、その時間の入場は出来なくなります。そして、そのアプリで、訪問したいパビリオンの入場にエントリーしなくてははいけません。夜 12 時からの受付なので、それに 1 秒でも遅れると、2000 人待ちとかの表示がされます。1 つ取ればいいのかと思います。見る間にエントリー時間が満杯になって行きま

す。取れた入場時間が夕刻になってしまったりとなかなかご自身の帰宅時間との兼ね合いが難しいですよ。

実際にアメリカ館に入場すると展望台のようになっていて、NYなどの景色が流れ、私達を楽しませてくれます。そして次の部屋へ促されると、流石アメリカ館はディズニー等のアトラクションを思わせます。ロケット発射のイメージから宇宙に飛び出します。月の石も見られます。

大阪ヘルスケアパビリオンで人間洗濯機も見てきました。拍動する心臓の筋肉膜はパソナ館。日本の漆塗り（輪島塗）技術を活かした黒い地球儀は、夜の地球パビリオン。大陸は金で表されています。ロンドンの地図もありましたね。火星の石は日本館です。南極で発見された世界最大級の火星の星を初めて広く一般公開したものです。日本館は環境をテーマにしています。

マレーシア館の前では一時間おきにダンスショーをやっています。一緒に踊ってきました。ノリノリで。テレマカシ。サマサマ。UAEパビリオンの前で民族衣装を着た男性たちが民族音楽の演奏を披露していたので、動画を撮ってきました。

主要なパビリオンを回れなくても、私は異文化体験の空間を存分に楽しめるのではないかと思います。人気どころは、2時間待ちなどといったことがあるので、空いているところからどうぞ。そして私がお勧めなのは、予約のいらないCommon館A～Dです。一度に20か国ほどが集まっており、一遍に様々な文化を体験できるスペースになっています。また、日々様々なイベントが行われており、ヨーロッパの有名バレエ団が舞台上で踊っているのを間近で見られたり、ウィーン少年合唱団が屋外舞台で歌を披露してくれたりといったことがあります。もちろん特別料金は必要ありません。貴方がラッキーならお目にかかれます。私はポルトガル館、UAE、カナダ、オーストリア、クウェート、フランス、韓国、日本、アメリカ、カザフスタン、アゼルバイジャンといったところを回ってきました。あと残すところ2か月程ですが、皆さんも体験されてみてはいかがでしょうか？自分の人生の中で、本国開催の万博に行くことが出来るのは、今回が最後かも知れませんよ。

(国際学研究科国際交流研究専攻 第1期修了生)

(2025年8月15日原稿受理)

東南アジア支部だより

第63号から、タイ在住の**大畑美優紀**さん（国際学部社会学科第1期生・国際学研究科国際社会研究専攻第1期生）が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。2019年4月から、年4回から**年2回発行（4月1日、9月1日）**の変更になりました。

今回の第20号の内容は、1. 交流会レポート「現役宇大留学生送別会」 2. タイの昨今（第20回）変わりゆくお葬式の形 3. 同窓生リレーインタビュー ●●現在東京にて

ご活躍の原理恵さんにインタビューです●● 4. 連載コーナー 狙えインスタ映え！？
アジア取材雑誌第 16 回 カンボジア “一路一帯” の深い傷 5. 連載コーナー ～懐かし
の一枚～ とともに感じる東南アジア(第 16 回)はつはるの山越え集うアカはひとつ です。

EU 支部だより

知求会ニュース第 38 号からイタリア在住の松原真実子さんによる知求会 EU 支部

「Newsreel World」を発行してきました。今回の「Newsreel World」55 号の内容は、

1. イタリア コーヒー 2 杯と水で 9 5 0 0 円、観光客相手のぼったくり横行
2. EU 支部だより ー海は有料？無料？ーです。

編集者のひとりごと

●2025 年 8 月 11 日に、小山市立博物館で開催されている第 83 回企画展「戦争の日々と小山の人々」を観覧してきました。夕方からの会社の「暑気払い」の会合前に行ってきました。企画展に際し、小冊子が配布されていました。「戦争に行った人々」コーナーでは、航空隊員の山中正三さんと海軍少尉の石倉末吉さんが紹介されていました。この小冊子のコラムで「先祖の軍歴をたどる方法」を知り、早々に栃木県高齢者対策課へ父の軍歴を照会しました。父の生前に軍歴を聞いておけばよかったとの後悔から、父の履歴が分かればと思ひ、13 日の栃木県立文書館の観覧後に、市役所で戸籍謄本などの書類を急ぎ整えて、旧軍人軍属関係情報提供申請書を申請しました。

●2025 年 8 月 13 日に、栃木県立文書館^{もんじょかん}で開催されている常設展「テーマ 1 文書でみる栃木の疎開」を観覧してきました。那須烏山市の安楽寺から文書館に寄贈された 1 次史料群は大変貴重なものでした。

●2025 年 8 月 15 日に、栃木県立博物館で開催されている特別企画展「とちぎ戦後 80 年 いま、おやと子で知る軍隊・戦争と栃木」を観覧してきました。4 章立てで展示が構成されていました。展示会場は通常の企画展より広く使用されていました。前半はゆっくり観覧できたのですが、後半は会場の閉場時間になってしまい駆け足の観覧になってしまい、心残りでした。400 点近い史料群で構成されていたので、もう少し余裕をもって訪問すればよかったと後悔しています。ですが、お盆休みに改めて平和のありがたみを感じたひと時でした。皆様はどのような、お盆休みを過ごされましたか？ぜひ、お聞かせください。

編集後記：2010 年 4 月 26 日から 知求会ニュースのバックナンバーは 国際学部同窓会 HP (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっていきます。

同窓会会員の皆様へのお願い：住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。 chikyukai@gmail.com
